いつまでも自分の歯で生活するために　VOL.15

最新技術を駆使して質の高い診療を

いつまでも、自分の歯でおいしく食事がしたい―こうした時代のニーズに応え、子どもからお年寄りまで幅広く歯の健康管理をサポートしている。歯周病治療、予防歯科、インプラント歯科、矯正歯科の四つの専門外来を軸に、三上格院長は「悪くなってから治す医療（ｃｕｒｅ）ではなく、悪くならないよう予防する医療（ｃａｒｅ）」を提唱する。口の中の健康は、全身の健康づくりへの第一歩だ。

超高齢社会に対応して「人生１００年まで」を新基準に見据える同医院は、患者が生涯にわたって自分の歯で生活していけるよう、三つの基本理念を掲げる。①整った歯並びでバランスの取れた噛み合わせをつくる②歯周病を寄せ付けない、口の中の環境整備③就寝時の歯ぎしりから歯を守る。これらの実現のために最新の歯科技術を積極的に取り入れ、より効果的で満足度の高い診療を提供できるよう常に知識や設備も更新し続けている。

たとえば歯科専用ＣＴは２０２２年に新調。口腔内スキャナーも最新鋭のものを使用し、高精細なデジタル画像で歯や歯茎、骨の状態まで立体的に再現できる。型取りやレントゲンといった従来の方法よりも正確でスピーディーな診断や治療を行えるため、患者への説明にも役立っている。

なごやかな雰囲気のスタッフ一同

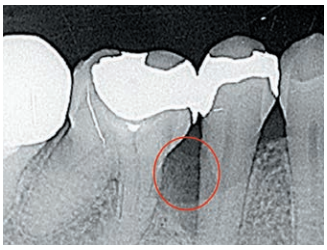
最新スキャナーで口腔内を立体的に再現

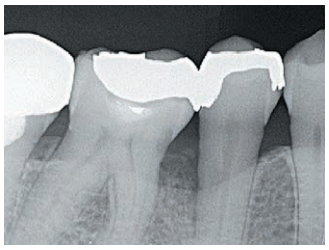
歯周病治療と予防の最前線

歯周病が進行すると、歯周ポケットの内側に潰瘍面が広がり細菌が侵入して増殖、やがて全身に拡散してさまざまな病気の原因となる。日本歯周病学会専門医である院長は、この潰瘍面を外科手術によって切除し、リグロス®という薬剤を塗布することで歯周組織を修復する再生療法にも力を入れている。

２０１６年に厚生労働省より認可を受けた新薬のリグロス®には血管の新生を促し、病変により溶けてしまった歯槽骨の復活を早める効果が確認されている。「以前であれば諦めるしかなかったような状態の歯も治癒できる可能性が広がり、歯の寿命を延ばすことにつながります」と院長。保険適用が可能なため、再生療法の敷居が下がったという点でも画期的だ。実際に治療を受けた患者からも、「歯がしっかりして、よく噛めるようになった」と喜びの声が寄せられている。

一方で院長は、こうした治療が必要になる前に歯周病の進行を食い止めることが重要だと考え、患者自身が日頃からより効果的なセルフケアを実践できるように啓蒙を行っている。「口腔内を長期的に維持安定させるには、口内の細菌数を減らすのが第一」とし、大手メーカーのライオン歯科材㈱と共同開発した「システマＳＰ-Ｔシリーズ」の洗口剤や歯磨き剤等を使った細菌のコントロールを奨励。さらに「ナイトガード」と呼ばれるマウスピースで歯ぎしりや噛みしめを防ぎ、歯や歯茎への負担を軽減するのも大切だという。


治療前。歯槽骨が溶けてしまっている


術後約1年。骨の再生が確認できる

医療法人社団 **みかみ歯科・矯正歯科医院**
☎(0144)35-3939
苫小牧市旭町4丁目7番20号
←ホームページはこちらから
歯科・小児歯科・矯正歯科

診療時間／
月・火・水・金／9:30～12:30　14:30～18:30
木・土／9:30～12:30
（水・午後インプラント、予防、歯周病外来）
休診日／日・祝日

苫小牧から全国へ発信する歯の健康管理

品質で選ばれるインプラント治療

バランスの取れた噛み合わせをつくるには、上下28本の歯全体が左右対称に並んでいることが理想だ。歯には、前歯、奥歯とそれぞれの役割があることから、仮に1本でも欠損すれば噛み合わせが悪くなり、どこかに無理がかかる。それを補うのが義歯、ブリッジ、インプラントといった治療法だ。見た目にも、実際の使用感ともに、天然の歯に最も近いインプラントはとても優れ、適切なケアを受けることで長期的にも安全に使用することができる。

同医院が採用しているのは、スイスの名門ストローマン社製。インプラントは、あごの骨にチタン製の人工歯根を埋め込み、ジルコニア製の冠をかぶせる。生体組織に親和性の高い高品質な素材が求められるが、日本口腔インプラント学会専門医の立場からも、世界中で信頼される同社製品は自信を持って薦められるという。

インプラント治療にも、歯周病専門医としての視点から取り組んでいる。単にインプラントを入れる治療にとどまらず、インプラントを入れたことで他の残っている歯を安定させて持続するための『歯を保護するインプラント治療』の考え方が本質」とする院長。同医院での30年近くに及ぶインプラント治療実績から耐久性は実証済みであると言い、「早い段階で処置した方が、より噛む力を維持できるのはもちろん、他の歯を失うリスクを減らす効果も大きくなります。ぜひもっと積極的に活用を」と呼びかける。

2022年発行の『Q&Aでわかる　専門家が作った患者さんのためのインプラント治療ガイド』（クインテッセンス出版）では、治療の流れや治療方法を解説する章の執筆を担当。講演なども意欲的に引き受け、インプラント治療に対する誤解や不安を取り除くために力を注いでいる。

院長が執筆に参加したガイドブック

「歯を抜かない」令和の矯正治療

「プレオルソ」使用／小児の反対咬合の矯正例（左：治療前、右：治療後）

「プレオルソ」は取り外しのできるマウスピース型の子ども用矯正装置。装着するのは在宅時の1時間程度と就寝時のみで、学校等に付けていく必要はない。永久歯に生え変わる前の使用が効果的だとされている。

〈期待される効果〉

- ●歯並びの改善
- ●不正咬合の予防
- ●舌癖の予防
- ●いわゆる「お口ポカン」の改善
- ●口呼吸から鼻呼吸への誘導

「インビザライン」使用／成人の開咬の矯正例（左：治療前、右：治療後）

マウスピース型の矯正は大人の治療でも注目を集めている。その代表が「インビザライン」。主な特長は、

- ●透明で目立ちにくい
- ●取り外しができて衛生的
- ●口腔トラブルが起こりにくい

子ども向けの「インビザライン・ファースト」もあり、従来は固定式矯正装置で行われてきた1期治療（顎の発育をサポートし、永久歯のためのスペースを作りながら歯並びを整える治療）の新たな選択肢として注目されている。

歯学博士・歯周病専門医　院長 三上　格

担当：一般・小児歯科、歯周病・予防歯科、インプラント歯科

苫小牧市出身。1983年日本歯科大学新潟歯学部歯周治療学教室助手。90年歯学博士号取得（歯周病学）。歯周治療学教室講師等を経て、2003年ハーバード大学ITIインプラントコース修了。日本歯周病学会専門医、日本口腔インプラント学会専門医・指導医、日本顎咬合学会認定医。日本臨床歯周病学会会員。ITIフェロー。

副院長 三上　睦子

担当：矯正歯科

栃木県日光市出身。1984年日本歯科大学新潟生命歯学部矯正学教室。1993年グリーンフィールド博士非抜歯矯正コース修了。日本矯正歯科学会会員。日本非抜歯矯正研究会会員。